

2025 年 9 月

高島屋と文京学院大学が、AI活用により伝統工芸・江戸小紋継承をめざす  
「ヒト×AIの共生による地域産業活性化プロジェクト」発足  
図案家激減による分業寸断をAIが補完 新作開発に向け包括連携協定締結

株式会社高島屋と文京学院大学は、2025 年 9 月 22 日、産学包括連携協定を締結し、「ヒト×AI の共生による地域産業活性化プロジェクト」を開始することをお知らせいたします。

#### ■協定締結の背景

高島屋は経営理念の中で「人を信じ、人を愛し、人につくす」ことを大切に、社会に貢献することを謳っており、1831 年の創業以来、永きにわたり、事業活動を通じて社会に役立つ活動や、芸術・文化・地域社会に対する幅広い支援活動を行ってまいりました。とりわけ呉服については、古着木綿商として創業以来、主要事業のひとつとして、普及・発展に寄与してまいりました。日本の文化が培ってきた「織（おり）・染（そめ）・繡（ししゅう）・絞（しぼり）・拵（かすり）」の染織五芸の向上を目的に創設した「上品會」では、時代にふさわしい呉服を創造・発表しており、昭和初期から現在も続く展示会となっております。高島屋では、これらの呉服催事や美術工芸品の販売・展覧会を通じて、全国の産地、名匠とともに、きもの文化、伝統技術の未来への継承に取り組んでおります。

一方、文京学院大学経営学部のデザインの経営史研究ゼミ（担当教員：川越仁恵教授）は、江戸小紋の古い作例を分析し、その特質をマーケティング調査することで、従来は暗黙知にとどまっていた図案制作理論を 2022 年 4 月に体系化することに成功しております。さらに、図案考案の最大の課題とされる「ランダム配置」を解決する独自アルゴリズムを開発し、職人が膨大な時間を費やしていた作業の大幅な効率化に貢献する AI 生成プログラムを完成させました。このプログラムを活用し、2024 年 5 月には新作江戸小紋「スイーツ尽くし小紋」を商品化しており、2025 年には、モチーフ点描化 AI システムの構築を進め、江戸小紋制作において伝承が難しいとされる職人の技をデータサイエンスとデザイン思考で分析・方法化・実証し、伝統工芸の産業活性化をめざしています。

そしてこのたび、高島屋の理念と文京学院大学の研究成果が合致し、地域産業の活性化を目的とした「ヒト×AI の共生による地域産業活性化プロジェクト」がスタートする運びとなりました。今後は、文京学院大学と高島屋が連携することにより、商品開発・店頭展開に加え、江戸小紋に限らない新たな活用方法も模索してまいります。

#### 【 Takashimaya × 文京学院大学 産学包括連携協定締結のポイント】

- 大学の研究成果を社会に還元
- ヒト×AI の共生による地域産業活性化（作り手の応援・モノづくり支援）
- 産学間の情報交換を通じ、産業・社会の発展と人材育成に貢献

#### ■「江戸小紋」の現状について

着物市場において、特に「けれんもの」と呼ばれるデザイン様式は新作がほとんど見られなくなっています。図案構成が難解で制作が困難であることに加え、熟練職人の減少により、「江戸小紋らしい模様の代表的存在」が失われつつあるのが現状です。

制作工程は図案家・錐彫り職人・型紙彫師・染屋による分業で成り立っていますが、現在、図案家は専門の熟練者が非常に少なく、錐彫り職人も現存図案（従来の図案）の再制作が中心となり、新作に取り組む余力がありません。

また、伝統工芸産業における AI 活用は依然として遅れており、断絶しかけている分業体制を補完することが重要な課題となっています。本プロジェクトは、AI を「職人の仕事を奪うもの」ではなく「支えるもの」と位置づけ、伝統の継承と産業の未来をつなぐ取り組みです。

以上